

生誕150周年記念 あ べ ふ さ じ ろ う 阿部房次郎と中国書画

2018年10月16日(火) — 11月25日(日) 会期中展示替あり
 (前期:10月16日—11月4日/後期:11月6日—11月25日)

特別協力:東京国立博物館

助成: 公益財団法人 花王 芸術・科学財団



阿部房次郎(1868-1937)

※作品の展示期間や関連企画など詳細については美術館 HP をご確認ください。

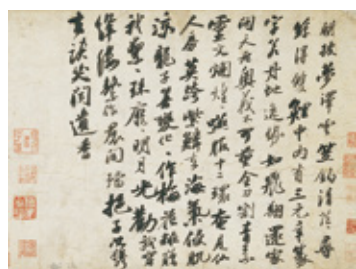
大阪市立美術館のコレクションは日本や中国の美術が中心であり、その収集を方向づけたといえるのが、阿部房次郎旧蔵の中国書画160件の受贈でした。美術館が開館して6年後の昭和17年(1942)、房次郎の子息・孝次郎氏によって寄贈された作品の中には、伝王維「伏生授経図」や蘇軾「李白仙詩」など重要文化財に指定された4件をはじめ、燕文貴「江山楼観図」ほか中国美術史上きわめて希少な優品が数多く含まれています。阿部コレクションの大半は絵画で、個人の収集でありながら、唐から清まで中国歴代の絵画を通観することができる点も特色といえます。

2018年は収蔵家の阿部房次郎が生まれて150年をかぞえます。慶応4年(1868)、彦根藩士・辻兼三の長男として生まれた房次郎は、上京して慶應義塾に学んだ後、近江の巨商・阿部市太郎の養子となり、実業家として大成しました。大阪に本社をおいた東洋紡績株式会社(現 東洋紡株式会社)社長を務めるなど、日本の近代産業の発展に対す

る功績から、昭和6年(1931)には貴院議員に勅撰されました。事業のかたわら、東洋美術を愛好した房次郎は、京都帝国大学教授の内藤湖南(1866-1934)や漢学者の長尾雨山(1864-1942)らの助言のもと、中国の古書画の収集に情熱を注ぎます。入手した作品は秘蔵することなく、求めに応じては披露し、つねに公に資すること望んでいました。没後、作品が散逸することを憂い、後世へと伝えられていくことを願った房次郎の遺志により、美術館へと一括寄贈されることになりました。

氏の生誕150周年を記念する本展では、大阪市立美術館所蔵の阿部コレクションから主要な作品を一挙に公開するとともに、東京国立博物館の協力のもと、房次郎旧蔵の中国古代封泥や書法作品を一堂に会し、収集の全容に迫ります。また中国書画の収集にあたって築いた文化人との交流に目を向け、近代日本における阿部コレクション形成の意義について、改めて考える機会としたいと思います。

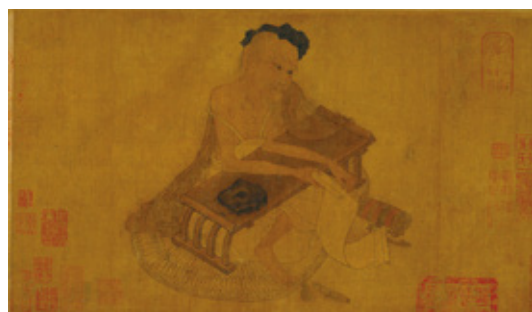
(森橋なつみ)



①



②



③



④



⑤

①重要文化財《李白仙詩》(部分) 蘇軾 北宋時代・元祐8年(1093)

②《江山楼観図》(部分) 燕文貴 北宋時代・11世紀

③重要文化財《伏生授経図》 伝王維 唐—宋時代

④《墨蘭図》 鄭思肖 元時代・大徳10年(1306)

⑤《藤花山雀図》 蔣廷錫 清時代・18世紀